

<日産が St. Pete に進出を決めた理由と期待>

日産ロシア製造会社

社長 保坂 不二夫

<経緯>

2006年6月13日(ロシア サンクトペテルブルグ市)

- ・ ロシアにおける車両組立工場建設に関し、ロシア経済発展貿易省との合意書、及び、サンクトペテルブルグ市との覚書に署名。
- ・ これによって同市での車両組立工場建設が確定した。

<概要>

建設場所：ロシア サンクトペテルブルグ市北郊カメンカの近く

生産能力：5万台/年(計画)・・・さらに市場の拡大があれば生産台数は増える

投資額 : 約2億ドル(計画)

稼働開始 : 2009年(予定)

従業員数 : 750人程度(計画)

生産車種数 : 3車種以上のモデルの投入を予定

<経済特区との関係>

St. Pete に認められた経済特区は、自動車産業とは直接的には関係なく、実際上も当社の候補地選定には影響していません。

日産が交渉してきたのは連邦政府による「工業アッセンブリー」スキームについてでありました。

<日産が St. Pete に進出を決めた背景>

魅力ある候補地がロシア全体にいくつもありました。最後に決め手になったのは4つの点でした。

1) 経済合理性: St. Pete は特に港に近いことから物流が容易、

2) インフラが良く整備されている点

3) 優秀な人材の確保ができる

・ 優秀な大学、研究機関がこの周辺にあり、優秀な技術者が雇用できる可能性が高いという期待をしています。さらに能力の高い労働者が雇用できるという予想もしている。

4)さらには St. Pete 政府が自動車産業をこの地に育てるという確固たる方針をもっていることがこの場所に工場をもつことを決めた大きな決め手であります。

< ロシア自動車市場の展望 >

- ・ 2005年度では乗用車 + 小型商用車でロシアのマーケット全体で160万台の販売実績があり、数年後には年間の販売台数は250万台に達すると見えています。
- ・ 特に日産の最近の販売の伸びは目覚しく 2004年度は3万台に満たなかったものが 2006年度の見通しでは6万台以上、つまりここ2年間で倍増しています。このような販売台数の増加は当社の現地生産の動きを早めてきました。
- ・ 生産台数が多いことによって経済的なメリットを得るのは当然ですが、また台数が増えることによって、部品国産化の必要性が高まっています。プレス为例に取れば、台数の少ないうちは、車体のパネルをプレスする工程は持てません。設備と TOOL の費用が高いために日本からパネルを運ぶ輸送費の方が安いからです。しかし、ある程度の生産台数が確保されると、現地でプレスしたほうが安くなり、また品質の確保がやりやすくなります。

< 部品サプライヤーの進出に対する期待 >

- ・ 日本の自動車産業の部品購入費は大雑把にいて製造コスト全体の約7割といわれています。従って自動車産業を支えるのは部品サプライヤーといっても言い過ぎではありません。
- ・ この点について言えば、まだこの地域には安定して部品を供給するサプライヤーは少ないのです。
- ・ 当社が生産を開始する時期は、ほとんどの部品を日本から輸送することになります。しかしこれには高いコストを払わなければなりません。今回 St. Pete 周辺に進出を決めた自動車メーカーも皆このことに大きな関心を持っています。
- ・ 早く競争力のある部品メーカーがこの地域に進出してくて、コスト、品質ともに安定した部品を我々に供給してくれる状態になることを待ち望んでいます。このことが自動車メーカーにとっても、またこの地域の雇用の増大、経済の発展にとっても有利になると確信しています。
- ・ St. Pete の政府に対するお願いですが、部品メーカーが進出しやすい条件を作っていただくことを切にお願いしたい。私たち自動車メーカーと

St. Pete 市はもはや、同じ船に乗った運命共同体です。真にこの地が自動車産業の中心地になるためには早くこの第2フェーズともいえる安定した部品メーカーの育成がもっとも必要です。この第2フェーズへのシフトに全面的なバックアップをお願いします。

以上